

論文審査の結果の要旨

氏名：横 瀬 宏 美

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：若年女性における月経前不快気分障害の有病率と関連要因

審査委員：（主査） 教授 大井田 隆
（副査） 教授 山本樹生 教授 越永従道
教授 根東義明

月経前不快気分障害（premenstrual dysphoric disorder:以下 PMDD）は、黄体期後期に抑うつ症状が出現し、仕事や学業、対人関係などにおける生活上の問題をきたす病態である。PMDD は月経のある女性の 3～8%にみられ、様々な研究が行われてきたが詳細な病態生理学的機序については不明な点が多い。本研究では一女子大学において PMDD に関する質問票調査を実施し、PMDD 関連要因について検討を行った。調査は自記式質問票で行い、学生 833 名（有効回答率 93%）から回答があった。調査項目には月経前不快気分障害診断に関する項目のほか、1) 生活習慣、睡眠習慣、朝型・夜型の時間特性などに関する要因、2) 月経の状態、婦人科受診歴などの婦人科的要因、3) 精神科受診歴および家族歴、性格特性、季節性特徴などの精神医学的要因、4) 最近 1 年間のライフイベント、ストレス対処行動などストレス関連要因、という内容を含めた。PMDD の診断は、精神疾患の診断・統計マニュアル新訂版（DSM-IV-TR）にもとづいて行い、PMDD と個々の要因との関連について統計学的に検討した。

PMDD は 833 名中 45 名（5.4%）にみられた。PMDD の有無を従属変数とし、合計 30 の要因との間で単変量ロジスティック回帰分析を行ったところ、合計 16 の有意な関連要因が認められた。これら有意な関連要因間の交絡関係を調整するため多変量ロジスティック回帰分析をおこなったところ、神経質、身体的不調への過敏、家族との対人問題、ストレス対処行動としての飲酒が PMDD と有意な正の関連を示した。今回の調査で得られた PMDD の有病率は 5.4%と、先行研究における有病率とほぼ同等であった。本研究の結果から、PMDD にはうつ病と共通する性格素因や心理的ストレスなど、精神医学的および心理学的要因の関与が重要であることが示唆された。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 27 年 2 月 18 日